



家庭保險條例草案

1-38
24

九一

32
1-15
止



114
A3617
5



第一條

中央家屋保險局ヲ置キ家屋保險ノ事ヲ統轄セ

シム

該局ノ組織ハ追テ職制章程ヲ以テ之ヲ定ム

但保險諸支廳ノ組織モ右職制ニ於テ之ヲ定

ムルカ故ニ此條例ニハ唯保險局ト書シ別ニ

區別ヲナサズ

第二條

家屋保險局ハ左ノ災害ヲ保險ス

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

(甲) 出火爆發及ハ消防ニ由テ生スル損害(火災
保險)

(乙) 洪水、暴風雨、落雷、地震、噴火、土崩及ヒ雪崩(火災
保險)

落雷、地震及ヒ噴火ニ因テ生スル火害ハ其火元
ノルト類焼タルトニ拘ラズ總テ天災ノ部ニ屬
シ火災ヲ以テ處分セサルモノトス

但戦争又ハ一揆等ニ由テ生スル火災并損害
ハ之ヲ保險セズ

火災保險ハ此條例ニ於テ保險部外トモ又ハ所

有主ノ情願ニ據テ保險スル家産及ヒ附屬具ヲ
除ク外總テ之ヲ受クベシ義務アルモノトシ天
災保險ハ家屋所有主ノ情願ニ據テ保險スルモノ
トス

第三條

保險局ハ家屋所有主ヲシテ年々一定ノ賦金ヲ
納メシメ其保險シタル損害ニ會シテ定規ノ補
助金ヲ交付スベシ

第四條

凡ソ既成ノ家屋ハ皇族、官府、町村又ハ私人ノ所

有タル一論ナリ其種ヲ及ヒ用方ノ如何ニ関ス
又地方保険局ヨリ布達次第保険ヲ受クハ義
務アルモノトス

第五條

皇居、離宮、其他皇室所屬ノ家屋ハ時ニ宮内省ヨ
リ請求スルニ非ザレバ保険セザルモノトス
其他神社佛閣ニ情願ノモノニ限り保険スベシ
但神官僧侶ノ家屋ハ保険ノ受クベキ義務アル
モノトス

第六條

保險都外トシテ保険スベカラサル家屋左ノ如
シ

(一) 外國人所有ノ家屋

(二) 家屋中保険ヲ受クヘキ部分、内未タ築
成ニ至ラサル所アルモノ及破壊廢類ノ

家屋

(三) 一時ノ使用ニ供スル家屋及ヒ小屋掛

(四) 建設運搬自由ナル建物(切組建物、箱葺所
并巡查所等)

(五) 保險價格拾圓ニ滿サル家屋

(六) 門、屏、牆及之家外ニ左ル井戸、井戸小

但長門ハ此限ニ非ス

(七) 借家人其他所有主外ノモノニ於テ設営

セル増築又ハ造作

第七條

其他保險部外ノ家屋左ノ如シ

人口二万以上ノ市街ニ於テ

(一) 全部藁葺又ハ板葺ノ家屋

(二) 一部藁葺ノ家屋

(三) 瓦石金屬葺等堅牢ノ屋根ニシテ三分一

以上ノ板葺ヲ混スル家屋

人口二千五百以上二万以下ノ市街ニ於テ

(一) 全部又ハ一部藁葺ノ家屋

但茅葺ハ藁葺ト同視シ樹皮葺ハ板葺

ト同視スヘシ

第八條

殊ニ火災又ハ爆発ニ危険ナル装置ヲナス家屋

又ハ危険物ノ營業若クハ製造ヲナシ又ハ之ヲ

貯藏スル家屋ハ此ノ同即内ニ在テ同所ニ主

ニ屬スル他家屋(一)又ハ敷棟ハ全ク保險ヲ

行ハザルカ又ハ其所ニ主ニ於テ保險局ヨリ要
求スル豫防方ニシテ施設シ又ハ堅牢ノ築造ヲ
スルテ保險ニ見合スルアルベシ
右種類ノ家屋ニシテ既ニ保險ニ受ケタルモノ
ナレハ保險局ハ全ク保險ヲ解除スルヲ得ベ
シ(第五十六條)

第九條

家屋所有主若シ府縣保險局ヨリ保險スベキ者
ノ連セラレ又ハ第五條第一及ヒ第二節ニ從テ
自ツカラ保險ヲ請求スルキハ左ノ制規ニ據

ルモノトス

(甲)凡ソ家屋ノ本建ヲ毀損セシテ容易ニ運
搬スルヲ得ルモノ即チ疊建具、階子、雨樋ノ
類其他土蔵ノ上ハ屋并ニ土蔵、部庇ハ保
險セザルモノトス
但シ土造及ヒ塗屋ノ戸ニシテ火災防禦
ノ為メニ用ユルモノハ保險スヘシ

(乙)家屋所有主ノ請求ニ從テ保險スルモノ左
ノ如シ

(一) 家屋ニ附着スル金屬具、金銀、泥及ヒ油

類

(二) 家屋ニ附着セル書画、錦緞、珠玉、彩鏤ノ類

(三) 高價ノ造作ニシテ地方定價表外ノ價位ヲ有スルモノ

(四) 家屋ニ固著シ容易ニ運搬スルヲ得サル器械、家具類

但シ右種類ニ付テハ追テ保險局ヨリ達スルマテハ百分保險セサルモノトス

(丙) 金、石又ハ煉瓦等ノ不燃物ヲ以テ造営シ

タル家屋所有主ノ請求ニ因テ保險部外トナスヲ得ヘシ

但其間木材ヲ混スルモノハ此限ニ非ス

(丁) 右(甲)(乙)(丙)ニ於テ定ムル家屋ノ部分ヲ除クノ外ハ總テ保險ヲ受クヘキ義路アルモノトス

第十條

凡テ内國人ノ所有ニ屬シ保險施行ノ區内ニアル家屋ハ如何ニシテモ外國ノ保險ヲ受クルヲ得サルモノトス

第十一條

若シ前條ノ禁令ニ違背スル者アリテ發覺スル
ルハ燒失前ナレハ保險金五分ノ一ニ當ル罰金
ヲ課シ燒失後ナレハ保險局ヨリ與フベキ保險
金ハ勿論他ノ保險社ヨリ受クヘキ保險金ヲモ
沒收スヘシ
右沒收スヘキ保險金ハ所有主既ニ之ヲ費耗シ
現存セサルルハ現時若クハ後來ノ所有財産ヨ
リ追徴スヘキモノトス
但沒收シタル金額ハ保險局ノ所有ニ歸スル

モノトス

第十二條

現時他ノ保險會社ノ保險ヲ受ルモノハ其府縣
ニ保險局ヲ設置シタル後千三十日間ニ保險
受ケタル旨保險ノ金高及ヒ約定ノ期限ヲ保險
局ニ届出ツヘシ然ルルハ約定期限中ハ之ヲ差
許スモノトス

第十三條

凡ソ家屋ハ保險局ヨリ保險証ヲ交附セル時ヨ
リシテ保險ノ効力ヲ有スルモノトス

第十四條

保險ヲナス前豫メ家屋ノ保險價格ヲ評定スルハ
シ
右評價ハ火災又ハ天災ノ保險ニ於テ更ニ差別
ヲ十サツルモノトス
凡ソ家屋評價ニ際シ其賣買價及ヒ建地ノ價格
ハ勿論位置ノ善惡家賃ノ高下又ハ家屋ニ屬ス
ル権理義務等ハ算定上ニ於テ更ニ顧慮セサル
モノニシテ唯ダ建家ノ材料及ヒ工料ニ止マリ
之ヲ鑒定シ然ル後テ諸材ノ衰替ヲ見計リ其成

價ヲ除算シ定ムルモノトス

又保險價格ハ地方定價表ニ照準シテ家屋ノ實
價ヨリハ殊ニ低價ニ定ムルモノトス且ツ造作
等ノ地方定價表外ノ價格ヲ有スルモノ(第九條
(乙)モ此ニ準ス

但評價ニ係ル細目ハ評價規則ヲ以テ之ヲ定
ム

第十五條

保險賦金ハ家屋ノ保險價格ノ外左ノ三項ニ掲
クル火災危險ノ度ニ從テ其割合ヲ定ム

- (甲) 家屋建造ノ性質
- (乙) 保險區人等ノ多寡
- (丙) 家屋平常ノ用方

第十六條

家屋建造ノ性質ハ左ノ表ニ從テ六級ニ分ツ

屋根	瓦、金屬、石、石盤 砂入桐紙葺	第一級	塗屋造(漆喰等ヲ以テ全ク塗詰メタル家屋)	第三級
	周圍ノ壁	石煉瓦及ヒ土造	第二級	其他平常ノ周圍
葺	板葺ニ樹皮葺	第三級	第四級	第五級
葺	葺	第四級	第五級	第六級

右表中ニ掲ケガル屋根又ハ周圍ヲ用フル家屋
アル片ハ臨時保險局ニ於テ其等級ヲ定ムヘシ
凡ソ屋根又ハ周圍ハ二種及ヒ三種ノ混淆ニ
ル片ハ其種中最危ノ等級ニ屬スベシ。譬へハ屋
根ノ一部ハ瓦ニシテ一部ハ板ナレハ板屋根ニ
屬シ又周圍ノ一部ハ煉瓦ニシテ一部ハ板ナレ
片ハ板屋根ニ屬スル等ノ如シ
家屋若シ他ノ家屋ト其構造ヲ連結シ兩屋ノ間
可燃質ノ壁ヲ以テ分隔スルカ或ハ屋根又ハ其
他相連結スル部分ニ於テ火災延焼ノ患アルモ

ノハ一家屋上見做スヘシ然レ氏土造煉瓦造ノ如キ第一級家屋ニシテ他ノ家屋ト相連結スルモ其周圍ノ構造火災ノ延焼ヲ防クニ足ルモノハ別ニ其等級ヲ定ム

可燃質ヲ以テ構造シタル庇又ハ雪隠ハ本家(第一級ノ家屋ヲ除ク)ト其構造ヲ連結シ且ツ之ト屋根及ヒ周壁ノ種類ノ異ニスルモ總テ本家ノ等級ニ屬スルモノニシテ之ニ據リ本家ノ等級ヲ變セス然レ氏其連結スル本家ハ第一級ノ家屋ナルモハ特ニ一等ヲ下スモノトス

但土造ノ上ハ家并ニ土造ノ葺庇ハ保險部外ナレヲ以テ更ニ土造ノ等級ニ關係ヲ有セザルモノトス

第十七條

地方人口ハ多寡ニ從ヒ保險區ヲ左ノ八級ニ分ツ

甲區	人口	二千五百人ヲテ
乙區	全	二千五百一人ヨリ五千人ヲテ
丙區	全	五千一人ヨリ一万人ヲテ
丁區	全	一万一人ヨリ二万人ヲテ

戊區 全 二万一人ヨリ四万人マテ
 巳區 全 四万一人ヨリ八万人マテ
 庚區 全東京ヲ除ク 八万一人以上
 辛區 東京
 兩箇以上ノ市街又ハ村落相接近シ其間一丁以上ノ空地云以テ隔絶セザルモノハ之ヲ各シ一ノ保險區トシ其人口ニ從テ前表ニ照準シ相当ノ等級ヲ定ムベシ
 保險區人口ノ數(本籍寄留ノ別ナク)ハ保險局ニ於テ臨時ノ人口調査表ニ從テ之ヲ定ム但シ後

日人口ノ増減ヲ生スルニ方リ其保險區ノ等級ノ昇降スルトセザルトハ全ク保險局ノ權内ニアルモノトス

第十八條

火災保險賦金ハ百回ニ付每六ヶ月左ノ割合ヲ以テ徴收ス

第 一 級	第 二 級	第 三 級	第 四 級	第 五 級	第 六 級	保險區等級	
						甲	乙
三七	三〇	二五	二〇	一五	一〇	四	四
三〇	二三	一八	一三	〇八	〇三	四	四
三三	二六	二一	一六	一一	〇六	四	四
三六	二九	二四	一九	一四	〇九	四	四
三九	三二	二七	二二	一七	一二	四	四
四二	三五	三〇	二五	二〇	一五	四	四
四五	三八	三三	二八	二三	一八	四	四
四八	四一	三六	三一	二六	二一	四	四
五一	四四	三九	三四	二九	二四	四	四
五四	四七	四二	三七	三二	二七	四	四
五七	五〇	四五	四〇	三五	三〇	四	四
六〇	五三	四八	四三	三八	三三	四	四
六三	五六	五一	四六	四一	三六	四	四
六六	五九	五四	四九	四四	三九	四	四
六九	六二	五七	五二	四七	四二	四	四
七二	六五	六〇	五五	五〇	四五	四	四
七五	六八	六三	五八	五三	四八	四	四
七八	七一	六六	六一	五六	五一	四	四
八一	七四	六九	六四	五九	五四	四	四
八四	七七	七二	六七	六二	五七	四	四
八七	八〇	七五	七〇	六五	六〇	四	四
九〇	八三	七八	七三	六八	六三	四	四
九三	八六	八一	七六	七一	六六	四	四
九六	八九	八四	七九	七四	六九	四	四
九九	九二	八七	八二	七七	七二	四	四

第十九條

學校病院其他慈善ノ為メ設置スル建物ハ荷表ノ割合ヨリ二十五錢ヲ減スベシ
殊ニ火災及ヒ爆発ニ危険ナル装置ヲ為シ右類ノ物品ヲ貯蔵シ製造シ營業スル家屋并ニ此ト同邸内ニ在テ同所有主ニ屬スル他ノ家屋(一棟又ハ數棟)ヲ保險スル時ハ別ニ増賦金ヲ納メシムルヲアルベシ
右類ノ家屋ハ所有主ノ都合ニ依リ保險ノ解除ヲ請求スルヲ得ベシ

但此場合ニ於テハ第二十八條第二節ノ手續ニ據ルモノトス

第二十條

保險賦金ノ徵收ハ年ニ兩度ト定メ一月一日ヨリ十五日マテ并ニ七月一日ヨリ十五日マテノ内ニ於テ六ヶ月分ノ全額ヲ領收証書ニ引換前納セシム

但十二月又ハ六月ニ於テ新ニ保險ヲ受ケタルモノハ其年ニ限り二月一日ヨリ十五日マテ并ニ八月一日ヨリ十五日マテノ内ニ於テ

納附スベシ

第二十一條

新ニ保險ヲ受タル家屋ノ賦金ハ其月ヨリ初ノ
上納期月ニ至ルマテノ分ヲ左表ノ割合ニ從ヒ
納メシムルモノトス

保險ヲ受
ケタル期月

一月 二月 三月 四月 五月 七月 八月 九月 十月 十一月

初ノ上納期月
至迄賦金

五月分 四月分 三月分 二月分 一月分 五月分 四月分 三月分 二月分 一月分

右賦金ヲ
納ムル期月

四月ヨリ十五迄ノ内七月一日ヨリ十五迄ノ内十月一日ヨリ十五迄ノ内一月一日ヨリ十五迄ノ内

六月及ヒ十二月ニ於テ保險ヲ受ケタルモノハ
右初度ノ賦金ヲ納ムルヲ要セス

初度ノ賦金ハ一ヶ月ニ付半年分賦金ノ五分ノ
一二当ル割合トス

第二十二條

保險ニ受ケタル家屋所有主若シ上納期月十五
日マテニ於テ賦金ヲ上納セサルハ其際損害
ヲ受クルモ保險補助金ヲ得ル能ハサルモノト
ス

臨時ノ事情ニヨリ保險局ヨリ賦金ノ延納ヲ許
ス場合タリトシ若延納期限ノ間ハ保險ノ効力
ヲ失フモノトス

家屋所有主如シ延納免許ヲ得スシテ定期内ニ
賦金ヲ上納セラルルハ保險局ヨリ其滞納金額
ヲ右期月ノ三十一日マテニ上納スヘキ旨ヲ督
但シ如シ期月ヲ超テ尚ホ命ヲ奉セサルハ公
買處分ヲ行フベシ
但督促用ニル郵書又ハ使了ノ費用ハ滞納
人ヲシテ辨償セシムヘシ

第二十三條

保險ヲ受タル家屋所有主自カラ其家屋ニ住居
セス又ハ之ヲ使用セス且永ク其地方ニ在ラザ

ルハ代理人一名ヲ置クヘシ若シ然ラサルハ
ハ保險局ハ其借家人ヲ以テ代理人ト見做シ賦
金ヲ徴収スベシ此ノ場合ニ於テハ借家人ハ家
賃ノ中ヨリ賦金ヲ若引キ保險局ヨリ交付セラ
レタル賦金額収証ヲ所有主ニ渡スヘシ若シ又
借家人存在セサルカ或ハ家賃ヲ以テ賦金ヲ拂
フニ足ラサルハ保險局ハ其家屋又ハ財産ヲ
差押ユルモノトス

第二十四條

家屋若シ數名ノ共有物ナルハ各所有主ニ於

テ其賦金ヲ負擔スベシ

第二十五條

保險賦金ハ家屋所有主ノ身代限處分ヲ受クルニ方リテ地租ト同一ノ先取權ヲ有スルモノトス尤モ其順序ハ地租ノ次タルベシ又家屋代理人(第二十三條)ニシテ保險賦金ヲ立替ヘタルモノハ其金額ニ限り亦同一ノ先取權ヲ有スルモノトス

第二十六條

賦金ハ何人ニ限ラズ又何レノ場合ニ拘ラズ決

シテ之ヲ免除セサルモノトス

第二十七條

天災保險賦金ハ每半年百圓ニ付五錢トシ又始メ該保險ヲ受ケタル月ヨリ初メ上納期月ニ至ルマテノ初度ノ賦金ハ百圓ニ付月一錢ノ割合ヲ以テ納メシム尤モ家屋所有主ニ於テ保險賦金ヲ納附セサルハ其効力消滅スルモノトシ督促又ハ公賣等ノ處分ヲナサスト雖唯初度ノ上納期月ニ於テ賦金ヲ納附セサルモノニ限り天災保險ニ於テルカ如ク督促又ハ公賣處分ヲ

行フベシ

第二十八條

家屋所有主ハ二回以上ノ賦金ヲ上納シタル後
ハ其望ミヨリ保險價格ノ半額ヲ以テ保險ヲ受
ルトヲ得ヘシ尤モ此場合ニ於テハ保險補助金
モ亦半額ノ割合ヲ以テ給スルモノトス
右半額ノ保險ヲ請求セント欲スルモノハ賦金
上納ノ際(一月七月)豫メ其旨ヲ届出ヘシ然ルレ
ハ保險局ハ次ヲ上納期月ヨリシテ改正ヲ為ス
モノトス

然レモ右請求者既ニ其家屋ヲ抵当トセシキハ
必ス先ツ債主ノ承諾ヲ得ヘク若シ承諾ヲ得サ
ルモノハ保險價格全額ノ百分ノ五ニ当ル罰金
ニ處スベシ

又天災保險ヲ受ケタル家屋所有主ニシテ右半
額ノ保險ヲ請求スルモノハ唯火災ノミニ付之
ヲ請求スルヲ得ス

但手数料トシテ保險價格全額分ノ火災保險
賦金(第二十一條)一ヶ月分ニ当ル金額ヲ納メ
シム

第二十九條

半額ノ保險ヲ受クル者若シ再ヒ金額ニ復セシ
 下ヲ望ムルハ前條半額ノ請求ニ於ケル如ク賦
 金上納ノ際豫メ其旨ヲ届出テ次ノ上納期月ヨ
 リ改正ヲ受ヘキモノトス
 又天災保險ヲ受ケタル家屋所有主ニ
 復カシテ請求スルモノハ唯火災ノミニ就
 キ請求スルヲ得ス
 但手数料ハ保險價格半額分ノ火災保險賦金
 一ヶ月分ニ当ル金額ヲ納メシム

第三十條

家屋所有主ハ損害ヲ受ケタル時ニ於テ左ノ制
 規ニ從テ保險局ニ届出ベシ

(甲)一晝夜間内ニ損害及ヒ其原由(自火、類焼、自

已又ハ他人ノ家屋ニ起ル爆発消滅)為メ

ニ生ル傷損又ハ洪水、暴風雨、地震、燄火、土

崩、雪崩)残物ノ有無ヲ口陳又ハ書上ニテ其

區戸長ニ届出ツヘシ

但自己ノ家屋ニ起ル火災又ハ爆発ハ其

事由ニハ原由ト思考ハル事柄ヲ届出ツ

(乙) 二晝間内ニ於テ保險証ノ番号及ヒ損害ヲ
 免レタル部分ヲ明細ニ届出スベシ尤モ自
 己ノ家屋ニ起ル火災又ハ爆発ニシテ上(甲)
 ノ届出ニ於テ減レタル事件アレハ此際再
 應詳細ニ届出ヘシ
 但若シ止ムヲ得サル故障アリテ實際
 届出ヲ為ス能ハサル場合ニ於テハ右故
 障ノ消滅セル時ヨリ其期限ヲ算スルモ
 ノトス

第三十一條

家屋ノ損害ハ若シ家屋所有主又ハ其家族ノ故
 意ニ出ツルカ或ハ甚甚シキ過失怠慢ニ出ルカ
 或ハ其助力同意、教唆ヲ以テ他人ヲシテ之ヲ
 行シムルニ係ルカハ保險補助金ヲ支給セサル
 モノトス若シ右所為ハ保險補助金ヲ下附シタ
 ル後キニ於テ發覺スル時ハ保險局ハ直チニ其
 金額ヲ返附セシムヘキ権理アルモノトス

第三十二條

家屋所有主ハ保險局ノ制規 於テ出ヘキ事

件ヲ隠秘シ又ハ虚妄ノ届出 為スルハ此ニ因
 保險補助金ヲ請求スル権理ヲ失フモノトス
 尤モ保險局ハ臨時ノ事情ヲ酌量シテ尚ホ保險
 補助金ヲ下附スルコトアリト雖其取捨ハ全ク同
 局ノ見込ニ在リトス
 右隠秘シ又ハ虚妄ノ所為ハ保險金ヲ付セル
 後ニ発覺セルキハ保險局ハ其金額ヲ返償セ
 ムル権アリトス

第三十三條

保險補助金ノ額ヲ定ムルカ為メ損害ノ大小ヲ

評定スベシ

損害ノ評價ハ其家屋ノ保險價ニ基テ算定スル
 モノニシテ修繕又ハ再築ノ費用且ツ該災ニ由
 テ生スル財産ノ諸損害等ニハ更ニ関係セザル
 モノトス
 損害ハ之ヲ全部損害及ヒ一部損害ノ二種ニ分
 ツ

(甲) 保險ヲ受ケタル家屋ノ部分蓋ク損害ニ罹
 リ更ニ残餘ナキ時

(乙) 損害ヲ免レタル部分アルニ其總價ハ地方

定價表ニ從テ僅ニ保險ニ百分ノ五(半額保
險ナレバ二分五厘)ニ越ヘサル氏ハ之ヲ全
部損害トシ其他ハ凡テ一部損害ト視做ス
ヘキモノトス

但損害ヲ免レタル部分中曩ニ評價ノ際
時ニ其價格ヲ定タル物存在シモ、
損傷ヲ被ラサル氏ハ全部損害ト視做ス
ヲ得ス

損害評價ニ就テハ損害ヲ受タル家屋ニ付全部
又ハ一部ノ損害ナルカヲ評定スヘク且ツ家屋

ノ各部分ニ就テモ全部四分ノ三、三分ノ二又ハ
二分ノ一ナルカ又ハ三分ノ一、四分ノ一、十分ノ
一又ハ二十分ノ一ナルカヲ鑒定スヘシ
右ニ掲ケタル割合ノ外ハ評定セザルモノトス
若シ損害ノ價格ハ例ヘハ三分ノ一ト云々ノ一
トノ間ニ在テ何レニ当ルヘキヤヲ判シ難キ時
ハ少数ノ割合即チ四分ノ一ト定ムベシ然レモ
二十分ノ一以下ノ損害ナル氏ハ地方定價表ニ
從テ之ヲ修繕スヘキ費用ヲ算定スルモノトス

第三十四條

保險証ヲ交附シタル時ヨリ五ヶ年ヲ経タル後
 十二損害ヲ受テタル家屋ハ復タ前ノ價位ヲ有
 セサルモノトシ其減價トシテ一ヶ年百分ノ二
 ノ割合ヲ以テ評價額ヲ減スベシ故ニ所有主ヨ
 リ少クモ右減價ニ相当スル金額ヲ修繕ニ費用
 セシ旨ヲ証明セサル氏ハ保險補助金ニ右金
 額ヲ差引クモノトス
 尤モ右修繕ニ使用セシ金高ハ損害ヲ受タル部
 分又ハ全家屋ニ付キ之ヲ証明スルモ所有主ノ
 随意タルベシ

第三十五條

保險局ハ等材又ハ工料ノ下落又ハ其他ノ原由
 ニ因リ實際ノ損害ヨリハ保險補助金ヲ過分ト
 視ルハ右補助金ヲ與ヘスレテ自ラ修繕又ハ
 再築スルコトアルベシ
 右修繕又ハ再築ノ費用ハ保險補助金ト視做シ
 保險局ニ於テ尽ク之ヲ有擔スト雖何レノ場合
 ニ於テモ保險補助金ヲ超過セシメサルモノト
 ス
 但此場合ヲ除ク外ハ常ニ現金ヲ以テ下附ス

大藏省

ルモノトス

第三十六條

有債ノ抵当トナリタル家屋ニシテ全部損害ヲ
 受ケタル時ハ保險局ハ其有債ノ金高ニテバ債
 主ヲ家屋所有主ト見做シ第三十八條ノ制規ニ
 從テ右金高ニテノ保險補助金ヲ下附スルハ尤
 モ教人ノ債主アルハ有債ノ先後ニ從テ順次
 ニ下附スルモノトス
 右金高ヲ下附シ高キ残余アル時ハ之ヲ家屋所
 有主ニ交付ス(右保險補助金ハ第三十八條ニ從

朱書ヲ加ヘ
 シル部ハ元
 來保險條例
 ニ屬スヘキ箇
 條ナラサルヲ
 以テ或ハ別ニ
 布達スルモ亦
 可ナラシキ事

債主ヨリ保險局ニ返納セシムルモノトシ又
 有債主ハ五ヶ年分ノ年賦金高ヲ旧債ノ未償高
 トシテ債主ニ拂フベキモノトス故ニ保險補助
 金下附高ヨリ右未償高ヲ差引キタル残高ハ即
 チ有債主ヨリ償却シタル高ト視做ス
 有債ノ抵当トナレタル家屋ニシテ一部損害ヲ
 受ケタルハ其所有主ニ於テ保險補助金ヲ修
 繕ノ費用ニ供スル時ニ限り該主ニ之ヲ下附シ
 修繕ノ費用ニ供セサル時ハ第三十八條ノ制規
 ニ從テ債主ニ交附スベシ(此場合ニ於テハ前節

如ク復債主ハ五ヶ年分ノ年賦金高ヲ旧債ノ未償高トシテ債主ニ拂フベキモノナルガ故ニ保險補助金下附高ヨリ右未償高ヲ差引キタル残高ハ即チ復債主ヨリ償却シタル高ト視做スベシ

第三十七條

第三十六條ニ従テ債主ニ下附スベキ保險補助金ハ若シ家屋所有主ニ於テ第三十條乃至第三十二條ノ制規ニ違背シ該金請求ノ推理ヲ失フハニ在テモ之ヲ下附スベシ尤モ第三十一條ニ

謂ヘル損害ノ原由ニ就テ債主モ其罪ニ與カルハハ此限ニ非ス

此他家屋所有主ニ於テ保險賦金ヲ上納ヤサレガ為ノ保險補助金請求ノ推理ヲ失フ時(第二十條)モ亦保險局ハ該金ヲ債主ニ下附スト雖此際債主ヨリ右滞納賦金ヲ辨納セシムルモノニシテ若シ其旨ヲ達シタル後十日内ニ上納セサルハ債主モ亦右補助金請求ノ推理ヲ失フモノトス

第三十八條

保險補助金ハ保險局ヨリ之ヲ受領スヘキ推理
 アルモノニ無利息ニテ貸付シ元金百介ノ四ノ
 年賦高ヲ以テ二十五年間ニ償還セシムルモノ
 トス
 此年賦金ヲ停滯ナク上納セシムル為ノ左ノ種
 類及ヒ割合ノ抵当ヲ出サシム

第一 地面

右ハ保險補助金ノ五割ニ當ル金高ヲ出サ
 シム

第二 公債証書及保險局ヨリ發行スル公債
 証書

右ハ其利子ヲ以テ年賦金ヲ償フニ足ルヲ
 ケノ金額ヲ出サシム

右抵当ハ二種ヲ合セテ差出スヲ得ベシ
 又抵当金高ノ割合ニヨリテハ前以テ年賦金ノ
 一部ヲ第四十七條ノ返納金計算表ニ從テ現金
 ニテ一時ニ返納スルヲ得ベシ
 受領者若シ抵当ヲ納メサル時ハ之ヲ納ムルコ
 デ保險補助金ヲ下附セサレトス
 年賦金ハ地面ニ抵当ナレハ一ケ年四度ニ割合
 ニ三ヶ月毎ニ上納セシメ公債証書及保險局公

債証書ナレハ利子下渡ノ節保險局自ラ之ヲ受領スベシ

年賦金皆濟ノ上ハ抵当ヲ返附スヘシ

第三十九條

地面抵当ハ左ノ制規ニ從フモノトス

第一 書入証書ニス可シ

第二 既ニ抵当トナリタルモノハ書入ルヲ

得ス又地券面金額半高以上ニ抵当ト

ナスヲ得

第三 保險局管轄ノ地方ニ在ル地所タルベ

シ

若シ保險局ニ於テ右地面ハ地券面

ケノ價格ナキモノト觀ルハ所有者

ヲシテ地價改正ヲ願ハシムルカ又ハ

保險局ノ鑿定ニ從ハシムルヲアルベ

シ

第四十條

前條ニ掲グル土地ノ抵当ニ保險補助金抵当ト

稱シ帳簿ニ記録スベシ

保險局ハ公賣處分ヲ行フ場合ノ外ハ其預リタ

ル抵白ヲ他人ニ賣却シ又ハ譲リ渡スルナキモ
トス

受願者若シ年賦金ヲ納メザルカ又ハ其他ノ事
由ニ因テ身代限ノ處分ヲ受ケ得險局ニ於テ其
抵当ノ地面ヲ公賣スルハ第四十七條返納金
計算表ノ割合ニ據リ年賦金未納高ニ限リ徴收
スベシ

第四十一條

保險補助金ハ拾四以下ナル時ハ抵当ヲ存置ス
ヲ要セズ且償還ノ義務ナキモノトシテ唯々其

朱畫ヲ加ヘ
タル部ハ元
來保險條
例ニ屬スヘキ
箇條ナリサル
ヲ以テ或ハ別
ニ布達スルモ
亦可ナリトシ

中ヨリ四割ヲケテ差引キ下附スルモノトス
右補助金ハ第三十八條ノ制規ニ從テ債金ニ下
附スルモノハ其中二割ヲ旧債ノ未償高ニシテ高
ハ割ハ負債主ヨリ償却シタル高ト視做スヘキ

第四十二條

抵当ニ差出スベキ地券公債証書及保險局公債
証書ノ金高ノ割合ニ於テ第三十九條ノ抵当高
ニ相當セシムル能ハス時ニ幾分カ人不足ヲ生
スルモ此不足分ノ四割ニ當ル金高ヲ保險補
助金ヨリ差引キ前以テ償還セシムルモノトス

但第三十六條ノ制規ニ從テ保險補助金ヲ債
主ニ下附スルハ右ノ足分ノ四割ヲ差引サ
ル金高ヲ以テ負債主ヨリ償却セシモノト視
做スベシ

第四十三條

受領者ハ抵当トシテ保險局ニ差出スル地
公債証書及ヒ保險局公債証書ヲ購求シ又ハ再
築ニ供スル木石及工事ヲ請負ハシムルニ方リ
其受領スルキ補助金ヲ以テ之ヲ支拂ハシムル
約定シ該金受取手形又ハ其旨ヲ記シタル約定

書ヲ賣主又ハ請負人ニ返スルヲ得ベシ然レハ
右手形及約定書ハ保人ノ保險補助金ヲ下附シ
キ廳局ニ就テ其認ヲ受クベキモノト
賣主又ハ請負人ヨリ補助金受取方申出シ
右手形又ハ約定書ノ文面ニ從ヒ其金額ニ
又ハ約定書引換ニテ直キニ持参人ニ下渡シ
ハ双方立合ノ上下渡スモノトス然レハ請負人
ニ於テ其約定ヲ履行セザルニ因リ裁判上右金
額ヲ得ヘキ推理ナキ旨ノ直告ヲ受タル片ハ保
險局ハ直キニ受領者ニ下附スベシ

第四十四條

百円以上ノ保険補助金ヲ受領シタル者ニシテ
後三々年内ニ該金ヲ以テ家屋ヲ再築シ又ハ既
成ノ家屋ヲ購求シ其旨ヲ届出ルモノニ限り後
十ヶ年間ニ再ヒ損害ヲ受シニ際シテ左ノ特種
ヲ與ヘバシ

右損害ニ付下附ニベキ補助金ハ前ニ下附ニ
第一回補助金ヨリ少キハ其中二割ヲ差引キ
残額ハ割ヲ給與シホ_レ当及返納ヲ要セス又是ニ
及レテ其下附ニハ補助金ハ第一回補助金ヨ

リ多キハ右金ヨリ第一回補助金ヲ引去リ
タル残高ト第一回補助金高ノ八割ニ当ル金額
トヲ合テ下附スベシ然レ_レハ右残高ハ第
八條ニ從ヒ抵当及返納ヲ要スベシト雖第一
補助金ノ八割ニ当ル金高ハ全ク償還義務ナ
クモトス

第三回又ハ第四回ノ損害ニ付テモ之ニ準ス

第四十五條

保険局ニ抵当トナセル公債証書又ハ保険局公
債証書ハ政府又ハ保険局ヨリ之ヲ支消セルカ

又ハ負債者ノ都合ニ因テ其更換ヲ請求スルニ
 方リ之カ為メ差出シタル抵当ハ其金高ノ割合
 ニ於テ前抵当高ト相等フスルヲ得ス幾分カノ
 不足ヲ生スルモ此不足分ハ第四十七條ノ返
 納金計算表ニ從テ現金ニテ一時ニ償却セシム
 ルニトス

第四十六條

既ニ四十期以上 年賦金ヲ上納シタルモ
 シテ其都合ニヨリ 保險補助金ヲ一時ニ償却セ
 シテヲ請求スル 第四十七條返納金計算表

ノ割合ヲ以テ差計スベシ
 但請求者ハ三ヶ月前豫メ其旨ヲ届出ス
 ノトス

第四十七條

年賦金ノ第三十八條ニ從ヒ壹ヶ年四期（廿三
 月）ニ割合ヒ二十五年間即チ百期ニ上納セシム
 ルカ故ニ百回ノ保險補助金ニ就テハ一期毎ニ
 一回ヲ納ムル割合ナリトス
 左ノ返納金計算表ハ補助金高百回ニ付之ヲ算
 定ス小毛ノニシテ第一欄内ニ於テハ尚ホ上納

第四十八條

保險ヲ受タル家屋ハ左ニ掲クル變更ヲ生スルニ際シテ保險局ニ届出ツベシ

第一

(甲) 保險價格ヲ失ヒ又ハ變更スル時(例へ

全家屋又ハ其一部ヲ毀解スル等)

(乙) 一時保險價格ヲ減スル時(例へハ修繕模

様替等ノ為メ保險ヲ受タル部分ヲ一時

解離スル等)但新旧差替ヲナスルニテ

直チニ工事ヲ終ルベキ場合ニ於テハ届

七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三
四三	四三	四四	四四	四四	四四	四五	四五	四五	四五	四六	四六	四六	四六	四七	四七	四七	四七
四六	七五	〇三	三一	五九	八六	一一	三九	六四	九〇	一五	三九	六四	八八	一一	三四	五七	七九
二	一	六	六	一	二	九	一	九	三	三	九	二	〇	四	五	二	五
五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八
三四	三四	三五	三五	三三	三六	三六	三七	三七	三八	三八	三八	三九	三九	四〇	四〇	四〇	四〇
四九	九二	三五	七六	一八	五八	九八	三七	六六	一四	五二	八八	二四	六〇	九五	二〇	六四	九七
二	四		八		六	五	七	四	四	八	六	八	五	六	〇	〇	四
二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三
二一	二一	二二	二二	二三	二四	二四	二五	二五	二六	二七	二七	二八	二八	二九	二九	三〇	三〇
〇六	七一	三五	九七	五九	二〇	七九	三八	九六	五三	〇九	六四	一八	七一	二四	七六	二六	七六
九	六	一	九	六	二	九	七	五	四	三	四	六	九	四	一	九	九
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八
			三	四	五	六	七	八	九	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一五
九八	九五	九〇	八四	七六	六六	五九	五二	四四	三一	一六	九九	八二	六三	四三	二一	七五	四九
四	二	五	三	五	三	六	六	〇	一	九	三	四	二	七	〇	〇	八

出ニ及ハス

(丙)家屋ノ全部若クハ一部自然ニ破壊スル時

(丁)火災又ハ爆発ノ危険ヲ生スル時(例ヘハ新ニ火災又ハ爆発ニ危険ナル物品ヲ製造シ貯蔵シ又ハ營業スルカ為メ)

(戊)家屋ノ等級減下スル時(例ヘハ屋根又ハ周壁ヲ以前ヨリ粗悪ニ造営シ又ハ是迄ノ家屋ヨリ下等ノ増築(第十六條)ヲナス等)

右甲乙丁及ヒ戊ノ場合ニ於テハ遅クモ変更ニ着手スル前日マデニ其旨ヲ届出ベク又丙ノ場合ニ於テハ破壊後五日内ニ其旨ヲ届出ベシ但丙ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル故障アルモハ第三十條但書ノ定規ニ據ル

右甲乙丙ノ場合ニ於テハ直チニ保険ヲ解除シ且其家屋ハ抵当トナリタルモノナシハ債主ニ其旨ヲ通知スベシ若シ右甲乙丙ノ場合ニ於テ其中変更セサル部分存在シ是迄ノ保険價格ニ基ツキ容易ニ分離

スルヲ得ル時ハ成ル可ク速ニ右部分ヲ保險
 ニ更ニ保險証ヲ交附スベシ
 又其家屋ハ抵当トナリタルモノナレバ保險局
 ヨリ債主ニ其旨ヲ通知スベシ
 了及ビ成ノ場合ニ於テハ可成ク速ニ保險ヲ改
 正シ新保險証ヲ交附スベシ
 但旧保險証ノ効力ハ新保險証交附ノ時ヲ以
 テ消滅スルモノトス

第二

(甲) 保險價格ヲ増加スル時(例ハ増築修繕屋

根ノ葺替又ハ造作ノ設管等)

(乙) 火災又ハ爆発ノ危険ヲ減スル時(例ハ防

火壁等ヲ設置シ火災又ハ爆発ニ危険ナル

貯藏物ヲ他ニ運搬シ又ハ其栄業ヲ廢スル

等)

(丙) 家屋等級ヲ改良スル時(例ハ粗悪ナル屋

根ヲ堅牢ナル屋根ニ葺替ヘ又ハ粗悪ナル

家屋ノ部分(第十六条)ヲ併離スル等)

右甲乙及ヒ丙ノ場合ニ於テハ家屋所有主ヨリ
 届出ノ上成ルベク速カニ保險ヲ改正シ更ニ新

保險証ヲ交附スベシ

但曰保險証ノ効カハ新保險証交附ノ時ヲ以
テ消滅スルモノトス

第四十九條

若シ家屋所有主ニ於テ第四十八條第一甲乙丙
丁戊及ヒ第二甲ノ届出ヲ怠リ後日登覺スル時
ハ罰金トシテ半年分ノ火災保險賦金ニ當ル金
額ヲ徴收スベシ又右變更ヲ隱秘ニ損害ヲ受メ
ル後ニ登覺スル時ハ保險補助金ヲ典へス若シ
補助金ヲ下附シタル後ニ登覺スルキハ談金額

ヲ返附セシムベシ

第五十條

保險証ノ効カハ保險補助金ヲ交附スル時ヲ
テ消滅スルモノトス

第五十一條

保險局ハ何時ニ於テモ保險ヲ停止スルヲ得ベ
シ

但其原由ヲ告示スルトキナルトハ保險局ノ
勝手タルベシ

第五十二條

大蔵省

允ソ保險証ノ効力消滅セル時ハ全部損害ニ因
 テ保險補助金ヲ下附セル場合ノ外ハ保險局ヨ
 リ現時ノ家屋所有主ニ次々一月又ハ七月ニ於
 テ前ニ上納シタル半年分若クハ初度ノ賦金ヲ
 在表ノ割合ヲ以テ返附スベシ

保險証ノ効力

次々七月(一月)ニ於テ

消滅シタル月

返附スベキ割合

一月(七月)

半年分ノ賦金五分ノ四

二月(八月)

五分ノ三

三月(九月)

五分ノ二

四月(十月)

五分ノ一

五月(十一月)

皆無

六月(十二月)

第五十三條

此條例ニ掲クル手数料ノ外尚他ノ手数料ヲ納
 メシムル場合ニ於テハ別ニ其規則ヲ定メ公布
 スベシ

第五十四條

保險諸廳局及ヒ其官吏ノ指揮又ハ處分ニ對シ
 不服ナル者ハ其長局ニ告訴シ尚ホ不服ナレバ

復其上列ノ長局ニ控訴スベシ
告訴及ヒ控訴ノ期限ハ其指揮處分又ハ判決ヲ
受ケタル日ヨリ起美シテ十四日間トス
同事件ニ付二回以上告訴スルヲ得ス
納附金ハ假令裁判中ト雖其徴収ヲ猶豫セサル
モノトス

第五十五條

甲 保險賦金(初度ノ賦金トモ)ヲ納附スベキ義
務ノ有無
乙 家屋ノ損害ヲ受ルニ際シテ保險補助金ヲ

受領シ得ヘキ權利ノ有無
丙 家屋ノ債主タルヘキ權利ノ有無及ヒ債主
トシテ保險補助金ヲ受領シ得ヘキ權利ノ
有無
丁 此條例ノ制規ニ據テ保險局ヨリ保險補助
金ヲ下附セサルヲ得ヘキ權利ノ有無
右四項ノ事件ニ付テ保險局諸廳局及ヒ其官吏
ノ指揮又ハ處分ニ不服ナルハ第五十四條ノ
手續ヲ以テ其長局ニ訴ヘ尚ホ不服ナルハ上等
裁判所ニ告訴スルヲ得ベシ

此ノ場合ニ於テハ該長局ノ判決ヲ受ケル日ヨ
リ三十日間内ニ訴状ヲ上等裁判所ニ提出スベ
シ

第五十六條

前條ノ事件ヲ除ク外總テ保險事務ニ係ル詞訟
ハ保險局ニ於テ終審ヲ遂ニ裁判所ニ告訴スル
ヲ許サス

